

第75回 てつがくカフェオンライン「今、コロナ禍についての対話を試みる」

てつがくカフェの流れ

- ① 「今、コロナ禍についての対話を試みる」というテーマに関して自由に話し合う。
- ② 話したことの中からキーワードを見つける。
- ③ キーワードから問いを作る。(例:「～とは?」「～は…だろうか?」)

休憩中です。

2時40分から再開します。

● テーマについて自由に話す

・ 日常に浸透

- 前の生活に戻っても順応できる?
- 今、マスクをするのが<普通>

・ オンラインの対話が日常生活に入ってきている

- 対話の場面や機会が増えた
- 密度は濃くなったけれど受け身
- 積極的になったけれど処理しきれない

・ オンライン：いきなり始まっていきなり終わる

- 対話・対話・対話
- ねちっこく考える哲学の良さがなくなっている
- 消費してしまう、消化不良

・ オフライン：本読む、考える→対話

- ねちっこく考える。終わってからでも考える。

・ コロナに感染、治った→「迷惑掛けたから謝りなさい」(会社で)

・ (積極的疫学) 過去の間人関係・行動→評価「不注意・自己責任」?

- どこかに要因、原因追及、誰かのせいにしたい
- 「謝りなさい」

批難? 対話の始まりにもなる?

「自分」「他人」に「甘い」「厳しい」

・ 対話のはじまり

- 「おたがいさま」: 通常モード。第三者なら言える。もしいざ「あやまれ」と言われたらこのように返答できるか?
- 対話をするためにはそれ以前に信頼関係。対等な関係性。
- 批難: いわれのある批難・いわれのない批難

・ 「謝る」の宛先→社会

・ ソーシャルディスタンス=社会を可能にするために距離を取れ=あなたも社会の一員

- 距離をとりなさい、でも、社会を気に掛けなさい
- 社会と複雑に絡み合う

・ コロナになってから、社会というより国家

- 新しい生活様式・国民総動員法などを思わせる
- 非社会が許されにくい
- 批難をすることで社会に入る

・ 脅威

- 感染、100%大丈夫か分からない。私がいることが脅威かもしれない
- 対話もそう

→対話で批難はしてはいけないが、思ってもいないところで傷つけることがあるかも知れない。傷ついた当人しか分からないかも。

言葉の暴力が含まれているかも